

第77回日本皮膚科学会 西部支部学術大会を開催して

(2025年10月18・19日)

岡山コンベンションセンター・岡山医師会館とWeb配信のハイブリッド開催

青山 裕美

川崎医科大学皮膚科学教室教授

2025年10月18・19日の2日間、岡山コンベンションセンターおよび岡山医師会館において、第77回日本皮膚科学会西部支部学術大会を開催いたしました。おかげさまで、1,200名を超える多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加くださった皆様、また演者・座長としてご尽力くださった方々、さらにはWeb聴講でご参加いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

大会テーマ：「疑問を感じ、考える皮膚科学」

AIの普及により、疑問を入力すれば瞬時に答えが得られる時代となりました。しかし、「考える」という行為は人間らしさの象徴です。思考をAIに委ねてしまえば、人間らしさを失ってしまうでしょう。日々の皮膚科診療では、多くの「なぜ？」に直面します。その疑問を言語化し、思索し、検証し、修正していく過程こそが、学問の本質であり進歩の源です。思索を言葉にして表現し、他者と意見を交わす場であることが学会の意義と考えて、テーマを設定しプログラムを企画いたしました。今大会では、参加者の皆様がもつ疑問や考察を直に拝聴し、大いに刺激を受けました。発表では、PowerPoint資料やプレゼンテーションの工夫が随所にみられ、非常にわかりやすく、「なるほど、そういうことか」と新たな気づきを得られる学びの時間となりました。

ドレスコードは“デニム”で

今回のドレスコードは「デニム」。これは、川崎医科大学が位置する倉敷が国産デニム発祥の地であることにちなむものです。

「何を着て行こうか？」と、皆様を少し悩ませてしまったかもしれませんが、当日は、デニムをお洒落に取り入れた参加者が会場に集まり、和やかな雰囲気談笑される様子が印象的でした。「楽しいです！」と笑顔で語られる皆様の姿が、何より嬉しく、思い出に残っています。岡山デニムをお土産に購入された先生方もいらっしゃったようです。

心を打たれた文化講演と音楽コンサート

文化講演には、ラグビー日本代表で歴代最多キャップをもつ大野 均氏をお招きしました。ラグビー経験者である田中 了事務局長の発案で実現した講演でした。真に苦労を経験された方の言葉は深く胸に響き、チーム理論や戦略を超えた「信念」と「情熱」の大切さを、改めて実感させられました。「感動した」「涙が出た」との声も多く、参加者の心を大きく揺さぶった時間でした。また、直島を拠点に活動されているミュージシャン、福島 節さん、真希さん、渚さん親子によるミニコンサートでは、直島の美しい自然、素朴な暮らし、家族への愛、地域の温もりが音楽を通して伝わり、心洗われるひとときでした。

なお、皆様の素敵なデニムファッションを称えて、「ベストドレッサー特別賞」を贈呈いたしました(写真1)。

おわりに

今回の大会では「西部支部らしさ」を重視し、演者や座長にはできるだけ西部支部所属の先生方にご登壇いただいたことで、大学間の交流がいっそう深まりました。また「川崎医科大学らしさ」を出すべく、弊学にゆかりのある方々にもご協力いただきました。学会の企画、抄録集の表紙デザイン、プログラム作成、講演・コンサート・パーティーの運営、ベストドレッサー探し、コングレスバッグの制作、写真撮影まで、すべて田中 了事務局長を中心に教室員が協力して分担し、手づくりで行いました(写真2)。こうしたオリジナリティ溢れる学会を開催できたことを、たいへん誇りに思っております。また、陰ながら支えてくださった日本皮膚科学会事務局の学会運営チームの皆様にも、心より感謝申し上げます。

来年は、アクセスのよい博多にて、福岡大学の主催で開催されます。西部支部学術大会のさらなる発展を心より願っております。



写真1 文化講演の大野 均さん(後列)と、前列左よりコンサートを担当してくださった福島 節さん、渚さん、真希さん、西方正輝さん



写真2 川崎医科大学皮膚科学教室一同